

講義名	対)公務員特別演習 (公安職)			授業形態	
担当教員	村上 友章	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

【目的】
公務員特別演習は、公務員を目指す経済学部生を対象とする、1年後期(演習)から4年前期(演習)まで一貫したプログラムである。本演習はその内の公務員特別演習(公安職コース)である(3年次からは行政職コースと分かれているので注意してください)。
「究極のサービスマン」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くはない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められている(まさに本学が掲げる「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材)。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。

【内容および方法】
本講義は公務員の中でも特に公安職を目指す学生に提供されるものである。その上で、本講義では「数的処理」と「公安職研究」を行う。「公安職研究」では、以下の方法で授業を行う。
・グループ、もしくは個人で興味のある公安職の現状を整理し、抱える問題を調査・分析する。
・これらの分析を基に、解決策を考察し、発表・議論を行う。
・以上の作業に当たっては、フィールドワーク(現地調査)も実施する予定である。

到達目標

- ・公安職が直面する現状・問題に気づき、公務員採用試験の人物評価試験に耐えうる知識を身に付けることができるようになる。
- ・「考える学習型」授業を通じて、主体的に考え、文書作成、プレゼンテーション能力を養うことができるようになる。

提出課題

「公安職研究」では、授業内での報告のための資料およびレポートの提出を求める。
「数的処理」については、授業中に適宜指示をする。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

「公安職研究」では、授業内の報告時に担当教員によりフィードバックを行う。

評価の基準

授業態度20%、授業中で行う報告50%、学期末レポート30%により評価する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本クラスは、真剣に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。
- ・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
- ・学内の公務員試験対策講座(3年生から始まる有料講座)等の受講、もしくは外部専門学校の受講(ダブルスクール)を強くお勧めする。
- ・「基礎技能A」以外の関連する正課授業も、順次、履修することを強く推奨する。
- ・(共通)法入門、経済入門、地域まちづくり概論、防災まちづくり論、業界研究(官公庁)
- ・(公安職)基礎技能A(数的処理)

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					

その他

資料は授業中あるいはRyuka Portalの講義連絡にて適宜配布し、参考文献は個人のテーマに合わせて授業中に紹介する。

授業計画

1. 授業の概要
2. 公務員試験の動向
3. 公務員試験対策
4. 試験対策演習(教養問題)
5. 試験対策演習(教養問題)
6. 試験対策演習(教養問題)
7. エントリーシート の書き方
8. 面接対策(1)
9. 公安職について発表・討論
10. 公安職について発表・討論
11. 公安職について発表・討論
12. 公安職について発表・討論
13. 公安職について発表・討論
14. 公安職について発表・討論
15. 面接対策(2)

*スケジュールは変更の可能性があります。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義では「考える学習型」授業を行う。そのため、授業時間外の学習が必須、重要となる。「公安職研究」では、報告のための準備として毎週4時間程度の準備作業が必要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。
【流通科学大学の学生が卒業時に到達して身につけておくべき資質・能力】
「ネアカのびのびへこたれず」の精神をもった人材
知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人材
能力 新しい視点と豊かな発想を持った人材
自主・自立の精神を持った人材
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンとなるための基礎能力

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習形式の授業である。学生はパワーポイントを作成、あるいはレポートを提出し、教員や他の受講生はそれについてコメントを行う。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。外務省総合外交政策局・国際平和協力室調査員。外交実務の一端に触れた経験をふまえた演習を行いたいと思います。

備考

【対面授業を履修する場合】
一時的に通学困難になった場合、オンデマンド授業への移動は行わず、対面授業中での対応を行いますので、ご注意ください。